

長野県産の落葉松の活用を デザインから考えてみる公募展、開催。



森の国、日本は、木の文化の国でもある。日本人は、建築はもとより、家具、器などいろいろなものを木でつくってきた。しかし今、輸入材に押されて国産材の利用が激減し、林業や森林そのものが荒廃し、大きな問題となっている。

そこで、木を巡るさまざまなことから“デザイン”という視点で再度考えてみようとはじまったのが、長野県の軽井沢にある脇田美術館が主催する「木のデザイン」公募展だ。長野県を代表する樹木である落葉松を使って、人の生活を便利にしたり、豊かにしたり、楽しくしたり……そんなデザインを広く募集した。

昨年、プレビューが行われ、ユニークな作品が展示されたが、今年は3月の応募締め切り後、一次審査(デザイン画などの書類)、二次審査

(模型)を経て18の作品が最終審査に残った。家具あり、文房具あり、オブジェありと作品の幅広さは、プレビューにひけをとらない。

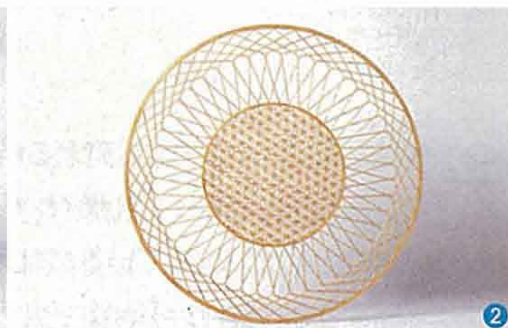
「建具のすばらしい技術が生かされている」「ふしのある材でつくってもおもしろいね」「空間を一変させるおもしろさがある」など、審査員からはさまざまな意見が出された。

10月8日から始まる展覧会では、二次審査を通った18の作品が実物や模型で展示されると同時に、展覧会初日には大賞をはじめとした各賞が発表される。

木は使ってこそ、山も森も守ることができるし、CO₂の削減にも貢献できる。デザインという暮らしに身近なところから、国産材の価値を見直すこの公募展は、木という素材の可能性がまだまだあることを教えてくれる。



①



②



③



④

①鈴木洋一郎「カラマツ林の色えんぴつ」。②中村光敬／中村木工所「壁飾組子」。③机宏典「木箱」。④都築弘樹「BEES CHAIR」。写真:高梨光司

「木のデザイン」公募展2011

会期:10月8日(土)～11月25日(金) 会場:脇田美術館(長野県北佐久郡軽井沢町旧道1570-4) 時間:10:00～17:00 休館日:10月15日午後 入場料:一般1000円、大学・高校生600円、中学生以下無料 ※初日13:00～オープニングパーティ、シンポジウム(カリ・ヴィルタネン氏〈木工家/フィンランド〉ほか)あり。入館者は参加自由。 <http://www.wakita-museum.com/>